

企画/よんまち編集部
取材・編集・写真撮影/安原幸雄(株式会社 安原楽器)
取材・文・イラスト/木村桃子



安心・安全な空間を。

「コロナ禍で、宴会需要も変化する中、どうしていくか。3密を避けた安心できる空間の徹底しかない。その延長線上としてこの場所ができました。」

（株）フューレックさんは、映像事業やフード事業など、多彩な事業を展開しながら地域と共に歩んできた。

コロナ禍で宴会などの自粛ムードが漂う中、with コロナに向けた改革に乗り出す。県の推奨するコロナ対策の徹底、店内の改装、さらに外空間の活用に積極的に乗り出した。夏の夜の店のバルでは、外の席を設けてオーダーを受けるなど実証実験を行い、そこから得た経験を活かし、パークエリアの改修に乗り出す。今年10月、本格的なガーデンスペースが出来上がった。

「コロナをきっかけに、外で食事をする楽しさを感じて欲しい。新しい生活様式の1つとして定着していけばと思います。」

（ふな屋店長の菅田希美彦さん）

いろいろな使い方を。

ガーデンスペースは、宴会場である『ふなまちベイホール』と、隣接する『まごころ料理ふな家』の延長線として利用を始めている。今後の展開としては『ふなまちベイホール』を窓口にしなが、貸しスペースとしての利用など、様々なイベントに対応できる場所としての展開を考えている。近く予定しているのは10月3日開催の周年祭。招待客にガーデンのお披露目を兼ねて、音楽ライブとバイキング、夜はバーベキューを予定。

また11月28日には、泡盛の蔵元を呼んで泡盛を楽しむ泡盛同好会も予定。

「クラブイベントもやりたいなという話もあります。キッチンカーが入れるスペースもとっています。イベントとしても使ってもらったらいいですね。いろんな使い方が考えられるから、お客様から使い方を提案していただけたらと思っています。」

（株）フューレックの原田公晴さん



（株）フューレック 営業本部 本部長 原田公晴さん。いろんな使い方や可能性が広がる場所にしたいと語る。

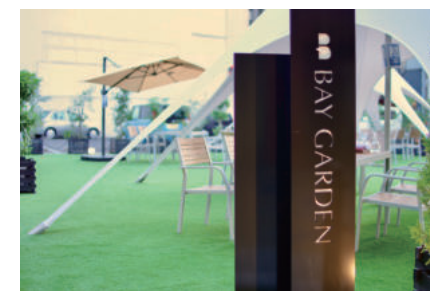
「外」で広がる可能性 ウィズコロナ時代に向けた 新しいお店のカタチとは？



宮通りからJOYふなまちの入り口に差しかかる場所に、広々としたガーデンスペースが出現。

『ふなまちベイガーデン』と名付けられたこの場所は、JOYふなまち内に『まごころ料理ふな家』『中華ダイニング青冥』『ふなまちベイホール』などの飲食事業を展開する

（株）フューレックさんの新たな試みの空間。オープンまでの経緯や、今後の活用法について、（株）フューレックの原田公晴さんと、ふな屋店長、菅田希美彦さんにお話をお聞きした。



『広島県商店街振興組合連合会』 支援 一商店街の価値向上オンライン研修会一

よんまち連携活動をととして 福山中心商店街の生きる道を模索する

オンライン
参加可

商店街はじめてのオンライン研修会を12月と2月、2回にわたって開催します。

現況と今後について、11月よりオンライン参加募集開始。中心部の100人の皆さまがオンライン参加できます。今後のお店づくり、街づくりに生かせる研修会にしたいと思います。



コミュニティハウスアンブレラ風景

第 1 回

『コミュニティー活動と商店街』
12/7(月)18:00~20:00

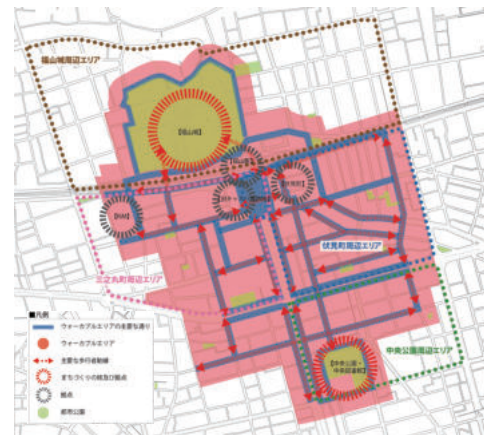
本通商店街が「福山らしさを発信するとおり町ストリートガーデン計画」のもと、ソフト活動として実践している「市民コミュニティと一体となった街づくり推進」について企画実施関係者の木村恭之さんと栗田慶子さんが対談。これまでの積み重ねと今後について話していただき、参加者のご意見によって、今後の中心商店街のあり方を探ってゆきます。

第 2 回

『福山駅周辺デザインによる街づくり』
2/17(水)18:00~20:00 ※日時は予定です

福山市が推進する中心部の活性化プランであるエリアプランとウォークアブルエリアについて、市の調整担当者、野田眞和さんが説明、若手経営者２名が対談予定。計画の内容説明と民間参加予定者が、その思いを語り合ってもらいます。

福山市と民間事業者のタイアップによる活性化の方向を探ってゆきます。



中心部ウォークブル計画図

オンライン研修会について：

とおり町交流館に街づくり推進中の皆さま20名が出席し、2～3名の対談者の話を受けて、議論いたします。その会議の様態をリアルタイムでオンライン発信し、参加された約100名のみならず、その議論に参加される形式です。

ファシリテーター／内海慎一
コミュニティデザイナー。Life work 代表。
全国各地の市町村、施設などのコミュニティデザインを担当。
福山市中心市街地賑わい創出活動支援事業の担当者となり、
「フクノワ」を結成。studio-Lとして商店街でのコミュニティ
活動を企画。

●参加者お申し込み
11月7日から受付開始
<https://formok.com/f/a7wx6ug7>

●お問い合わせ先
080-1640-6614
kimurateam123@yahoo.co.jp (担当: 木村恭之)



「まごころ料理ふな家」の店内のコロナ対策を見学。
部屋の換気や消毒をはじめ、席の配置、料理の取り
分けなどにも、感染への対策が見られる。
「新型コロナウイルス感染症対策の取り組み宣言店」
として広島県にも認可されている。

外空間に限らず、（株）フューレックさんのコロナ対策の取り組みは店内の至る所にある。まずは手洗い、アルコール消毒の徹底。アルコールは1週間抗菌作用が続くものを選び、各テーブルには次亜塩素酸水のボトルを常設。スタツフはフェイスシールドを装着し、スタツフの体調管理も徹底している。

座席はこれまでの約半分に減らし、座数も対角線上にお客様が座るようにした。全テーブルにはアクリル板を設置。さらに料理も、大皿料理のシェアは避けて、一人一人に取り分けるなどの個食スタイルに変えた。

お弁当、お惣菜の店頭販売も同時にこなっている。

「従業員の数はそのまま、動く範囲も広がった。作業も増えるので、今までの何倍も忙しいです。でも安心・安全には代えられません。とにかくできることをしっかりとしていく。」

（ふな屋店長の菅田希美彦さん）

できることをしっかりと。

ふなまちベイガーデン 福山市船町6-1 MAP 1
ふなまちベイホール 福山市船町4-1(3階) MAP 2

ベイガーデンについてのお問い合わせはふなまちベイホールへ
TEL:070-2369-7368 (11:00~19:00)
HP: <https://www.furec.jp/> ((株)フューレック内)

まごころ料理ふな家
 福山市船町6-4
 TEL: 084-923-2785
 OPEN: 17:00~22:00(L.O.21:00) 不定休
 ※状況に応じて変更する場合がございます。

このようなコロナ対策に加え、店内や入り口には、会社として取り組むコロナ対策が一目で分かるようにポスターにして貼られている。安心・安全のための対策を「見える化」することで店の姿勢を伝え、店と来店する側の相互協力を生んでいる。コロナ禍で頑張るお店が多い街にとって、頼もしく、参考になる話を多く聞くことができた。

安心・安全の「見える化」

喋りやすく親しみやすいオーナーの前原さん。年齢、性別問わない入りやすい美容室。また、ヘッドスパ、ボディエステができるのも特徴。その人柄と技術で、遠方からも常連客やまた新規の方も続々増えている。



本通商店街
Nc hair&spa
福山市笠岡町2-25
open: 9:00~18:00
close: 月曜日・第1火曜・第3日曜
tel: 080-2945-9577
LINE @274lhrua Instagram nc_hair723

MAP
5



セット面1席。女性一人でしている美容室は市内でも珍しい。緊張もなく、周りを気にせずリラックスしたい方にお薦め。ヘッドスパ、ボディエステは、東京に通って得た技術。



エヌシーヘア&スパ
Nc hair&spa
ヘッドスパやボディエステもできる、入りやすい美容室

よんまち新店

応援よろしくをお願いします！
近年、開店されたお店を順々にご紹介します。

店主の荻原さん。本好きだった少年時代、そしてビートルズから始まった音楽への興味、青春と好きなものが詰め込まれた隠れ家的な本屋さん。本の紹介を通して本好きな人、音楽好きな人の交流拠点になっている。

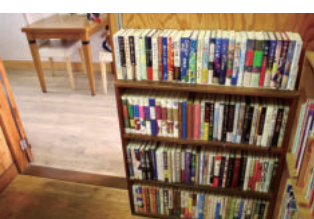


本通商店街
Village Green Books
福山市今町3-23 umbrella2階
OPEN: 11:00~17:00
営業日: 金・土・日・月
※イベント出張している場合もございます。
Facebook 「ヴィレッジ・グリーン・ブックス」

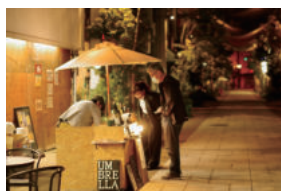
MAP
7



大人も楽しめる絵本がキャッチフレーズ。セレクトする本は、画集としても十分に楽しめる。「今まで知られてない絵本を広めたい。」との思いも。また、音楽好きとして音楽関係の本も充実している。ミュージシャンが制作に携わった絵本なども、マニア必見。



ヴィレッジ・グリーン・ブックス
Village Green Books
本好き、音楽好きが集まる、絵本と古本と音楽の店



福山本通商店街旧ふぢや前で、コミュニティハウス umbrellaさんが出張テラス営業中。顔馴染みのお客様も増えてきているようです。外で季節を感じながらホットワインでほっこりするのもいいですね。

- 毎週木曜～日曜(雨天時を除く)17:00-20:00
- 本通商店街とおり町交流館の斜め前「旧ふぢや」前
- 11月29日まで予定
- ※天候や寒さによって、早く切り上げる可能性もあります。

レモネード(アイス／ホット)
クラフトコーラ(アイス／ホット)
ホットコーヒー(エチオピア陰干し中煎り)
ホットワイン(山梨のワイン(数量限定))
宮島と茨城のクラフトビールやおつまみもありますよ。

MAP
4

check!
**よんまち
NEWS**

4つの商店街の
イベント情報など
お知らせコーナー。



まるしえのマルシェ開催

11/3(火)文化の日に、『まるしえのマルシェ』開催！第7回目となる今回は、本通(笠岡地区)で、ロハスなマルシェと一箱古本市、けん玉パフォーマンス。本通船町で、グリーンのマルシェ、JOYふなまちで、アンティークのマルシェを開催します。コロナ対策のため、マスク着用してお越しください。



のきたマーケットのご案内

本通商店街のアンティークのお店『REBORN』さんの店前で、毎週月曜日に『蓮花』さんによる小さなマーケットを行なっています。尾道古道具『冥王星』さん11/3,12/2,12/3など出店予定。 MAP 6

よんまちHP近日公開!
yonmachi.net

よんまち新聞のホームページが近日公開!4つの商店街の最新情報や、過去の記事など公開していく予定です。お楽しみに!

13 CAFE umbrella 外で楽しくカフェ・アンブレラ

よんまち百景



商店街のちいさな
幸せみつけた!



2階では、フラワーデザインスクールも開催。初心者の方から経験者までお待ちしております。詳しくは『花辰』でホームページ検索。

きたはま通り
株式会社 花辰生花店
福山市船町1-6
OPEN:9:00~21:00
TEL:084-923-2570
http://www.hanatatsu.com

MAP
8



**花辰に行けば
何でも揃う。**

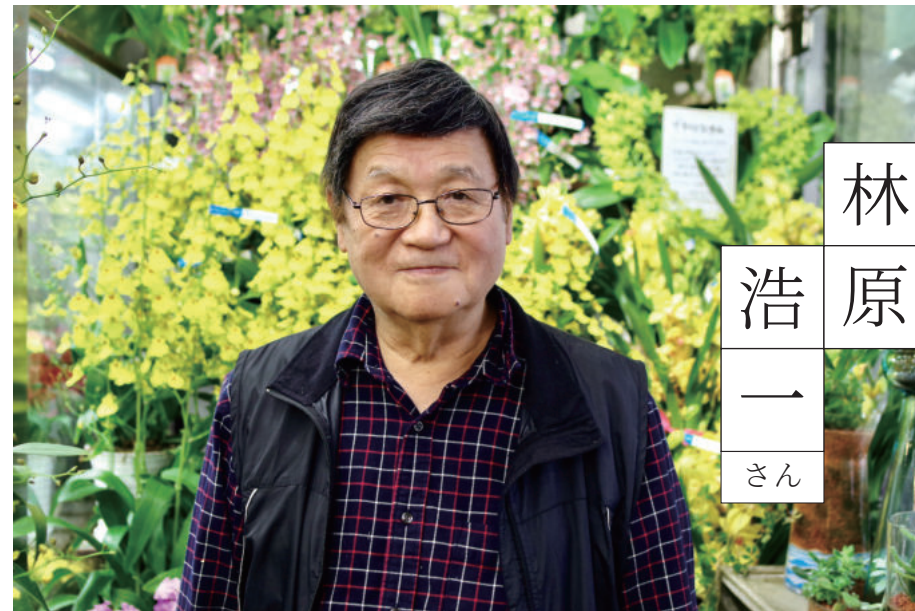
老舗の花屋で育った浩一さんは、自分が花屋を継ぐとはあまり思っていなかった。
「小さい頃から、どこに行っても『花屋のこうちゃん』って。この道しか知らなかった。」
大学出て20代の頃、東京の花屋に修行に行く。充実した花市場の中で、仕入れのルートなどを学んだ。この経験が大きなお土産となり、福山でも東京で扱うような花も仕入れられるようになる。
昭和56年、4代目を継ぎ、珍しい花が求められる時代に『花辰に行けば何でも揃う』を確立していった。

新鮮な花にける思い

仕事を続けてきた中で、浩一さんが一貫して大事にしていることがある。それは『花は新鮮が第一』ということ。
「お花は自分のためにはなかなか買えない。人にあげるために買うことが多いです。時には花屋さんが競合することもあります。他の花屋さんの花と一緒にもらうことがありますよね。もらった方は、どこの花屋さんから来てるかを大体見ます。お花の評価というのは、もらった時の豪華なデザイン、もらってどのくらい自分の目を楽しませてくれたかも重要です。いかに新しく丈夫な花を届けるか大切。」

「次の代になる人間は、また違うポリシーでやるかもしれないけど、それはそれで自分思うようにやればいいんです。あなた方が思うようにして売りなさい。こうしなければいけないなんてことはない。でもお金をもらう以上は、新鮮で丈夫な花というのはもちろんの事、皆様に支えられ、信頼されている事を常に心掛けていきたい。」
戦後から、多くの方に支えられ、花辰を巣立って花屋として独立した人たちも多にいる。福山の花屋の礎を作ってきた場所、これからも多くの人材を育て、人々に新鮮な花を届けていくだろう。

**花屋の本業は
新鮮で丈夫な花を届けること。**



株式会社 花辰生花店

林
原
浩
一
さん

「生まれてずっと花屋で大きくなったからね、この道しか知らなかった。」
お花といえば花辰。そう言う方も多いのではないだろうか。
それもそのはず、花辰生花店は100年以上もの歴史を持つ、福山で屈指の老舗の花屋だ。
4代目の林原浩一さんからお話を聞いた。

**花でたどる
時代ごとの福山の風景**

「明治の30年ごろ、今の宮通りのあたりで初代の辰吉という人が片手間で庭師をやった。その頃、寺町に、花道に腕の立つ住職がいて、その方を訪ねて京都の家元の人が福山に勉強しに来ていた。当時は花屋がなく花材を集めるのが大変で、それを初代の辰吉が手伝った。こんなものが欲しい。という頼みに、山に行ったり集めて回った。その花材が余って、自分の庭先に置いていたところ、ご近所の方がお墓参りや家に飾るためにお買い求めにお見えになった。それが花屋の始まり。」
当時の街中では山の草花は簡単に手に入らないため、需要があった。遠方まで自転車で花材を集め廻っていたが、2代目になると、自家栽培で花材を生産するようになる。
畑は現在の草戸町のあたりで、山では木の花、平地では草花を作っていた。次第に近隣の農家から作ってるものを分けてもらったり、今ならこんな花が売れる

現在の場所に店を構えたのは、戦後間もない昭和22年。きたはま通りは戦前は入江だったのが、戦後は福山駅からアメリカの進駐軍（現在の鋼管のあたり）までを結ぶ道になり、戦後の焼けの原の中で、コンクリ造の新しい道は珍しかったようだ。
「昔はタイル状で、ガッタンガッタンするんだけど、当時はそれでもこの辺りでは一番新しい綺麗な道だったんでしょね。」



福山駅



昭和35年(1960年)福山の住宅地図

